

まるごとブーゲン青島

目 次

青島エリア

青島	… 3
鬼の洗濯板	… 4
青島神社	… 5
青島神社の祭礼	… 6
青島参道商店街	… 7
青島海水浴場	… 8
県立青島亜熱帯植物園	… 9、10
青島と歌碑	…11、12
コンシェルジェあおしま	…13

折生迫エリア

城山公園	…15
青島漁港	…16
まちなみ散策	
- 鵜戸街道を中心としたエリア	…17、18
- 港町の雰囲気味わうエリア	…19、20
白浜オートキャンプ場・白浜海水浴場	…21
日之御碕観音寺	…22

こどものくにエリア

こどものくに	…24
青島歴史文化の広場	…25
トロピカルロード	…26
青島いろいろ物語	…27

青島地域がブーゲンビリアで生まれ変わり

散策する魅力が加わりました。

ぜひこの機会に

『あおしま』を楽しんでください。





青島エリア

青島エリア全体地図



青島エリア

青島

日南海岸国定公園の表玄関にあたる青島は、宮崎市から南へ約20kmほどに位置しています。周囲1.5kmほどの小さな島は「鬼の洗濯板」とよばれる奇岩に囲まれ、干潮時には陸続きとなります。

島内には亜熱帯性植物27種を含む約200種が生育していて、島全体は5000本を超える植物におおわれています。中でもヤシ科の亜熱帯性常緑高木のビロウが多く自生しており、樹齢300年を超えるものもあります。一年を通じて緑あふれるこの島の「青島亜熱帯性植物群落」は昭和27年(1952)に国の特別天然記念物に指定されており、北半球最北の亜熱帯植物群落として広く知られています。



青島は神話「海幸・山幸」の舞台として有名で、古くは「淡島、齒朶(しだ)の浮島、鴨就島(かもつくしま)」などと呼ばれていました。「齒朶(しだ)の浮島」の名は、神話で塩筒老翁(しおつちのおきな)が彦火火出見命(ひこほほでのみこと)をシダの葉を敷きつめた竹のかごにお乗せして、神国(わだつみのくに)に送られたことに由来するといわれています。

毎年成人式の日には若者たちが下着一つで青島神社にお参りし、海水を頭からかぶる「裸参り」も、「海幸・山幸」神話に由来するものです。

●弥生橋:

青島と青島海岸を結ぶ橋です。昔は粗末な渡し橋でしたが、大正9年(1920)3月に皇太子殿下(昭和天皇)がおお越しになられたのを機に木橋に架け替えられ、現在の橋は昭和53年(1978)に架け替えられたものです。弥生橋の名前は、木橋に架け替えられた当時のお歌所の入江為守所長の提案によって三月弥生にちなんで付けられました。



●遊歩道:

弥生橋を渡って青島神社に参拝して帰る人が多いようですが、青島に来たらぜひ青島を一周してみましょう。歩きやすい遊歩道が整備されていて、気軽に散策が楽しめます。



亜熱帯植物が繁茂している様子が楽しめる



鬼の洗濯板に囲まれた青島(青島の裏側)

青島エリア

鬼の洗濯板

青島の周りには「鬼の洗濯板」と呼ばれる珍しい波状岩が広がっています。正式には「隆起海床と奇形波蝕痕」だそうで、青島の周囲と日南海岸の海岸線に見られます。大昔に海面下にあった岩が地質変動によって水面上に現れ、波や海水に浸食されて現在のような形が出来上がりました。干潮時には海岸線に沿って沖合100mに及ぶ自然の不思議を思わせる岩肌が出現し、見事な景観を楽しむことができます。

●宮崎市観光協会のホームページより… <http://www.miyazaki-city.tourism.or.jp/>

俗に「鬼の洗濯板」と称され、新第三紀(約1500～3000万年前)に海中で出来た水成岩(砂岩と泥岩の累層)が隆起し、長い間の波蝕により出来たもので、青島から南の巾着島までの約8kmの海岸線に見られます。



島全体がノコギリの歯のような波状岩に取り囲まれています



遠くから見ると波がそのまま岩になったようです



ユニークな形の岩を探してみるのも楽しい

青島エリア

青島神社



弥生橋を渡り大鳥居を過ぎると「海幸彦・山幸彦」神話で知られる青島神社があります。神社の成立ははっきりしませんが、平安初期(約1200年前)の嵯峨(さが)天皇のときには青島大明神と記されていたと伝えられています。

中世・近世を通じて藩主伊藤家の崇敬を厚く受け、青島神社の造営・改築が行われていました。昔はこの島は、霊地として一般の方の入島は禁止され、藩の島奉行と神職だけが入島を許されていて、旧暦3月に行われる島開き祭から3月末の島止め祭の期間のみ一般の入島が許可されました。しかし、元文2年(1737)当時の宮司長友肥後が一般の入島を藩主伊東氏に願い出て、現在のように誰でも入島できるようになりました。

彦火々出見命(ひこほほでみのみこと<山幸彦>)・豊玉姫命・塩筒大神(しおづつのおおかみ)を祭神としており、縁結び・安産・航海安全の神様として親しまれています。

隣接する「日向神話館」では神話の世界や山幸彦と豊玉姫の恋物語の伝説が表情豊かな美しいろう人形によって再現されています。

現在はプロ野球のジャイアンツが毎年必勝祈願に訪れる神社としても有名です。

●青島神社のホームページ… <http://www9.ocn.ne.jp/~aosima/>



●玉の井:

青島神社の社務所の傍らには「玉の井」という井戸がまつられています。神話「海幸彦・山幸彦」の中で、山幸彦が豊玉姫と出会った場所と言われている所です。この井戸は四方を海に囲まれ標高もほとんどない島の中にあるのですが、不思議なことに水には全く塩分が含まれていません。向かいの山頂では塩水がわき出ており、水源が入れ替わったという伝説があります。この玉の井の水は清めの水として使われており、水を汲みに人々が訪れるそうです。

●元宮:

青島のほぼ中央に鎮座しており、青島神社の元宮と伝えられています。この付近からは弥生式土器や獣骨が出土しており、古代ではこの場所で祭祀が行われていたのではないかと考えられています。自生する熱帯樹林が押し迫るような元宮周辺では、まるでジャングルに迷い込んだような錯覚を覚えます。



青島神社の祭礼

●裸まいり:

旧暦12月17日、現在は正月の成人式の日に行われている行事です。これは山幸彦が海神国(わたつみこく)から突然帰ってきたことを喜んだ人々が衣類をまとう暇なく裸のまま迎えたという伝説に基づくものです。下着一つとなった若者たちが冬の寒さをもとめせず海に入り、禊(みそぎ)を行い体を清めて参拝します。禊が終わると青島参道に戻り真水をかぶって裸まいりは締めくくられます。

真冬に男性は白足袋とフンドシはちきま、女性は白足袋と白い短パン、サラシにじゅばん・はちまき姿という勇ましい姿で「ワッショイワッショイ」のかけ声とともに海に入る祭りで、青島の風物詩です。



●海を渡る祭礼:



古くから伝わるお祭りで、旧暦6月17日・18日(現在は7月最終土曜日曜)に行われ、青島神社の御祭神の御霊を御輿に乗せて海神国(わたつみこく)までお連れする夏祭りです。御神体をのせたお神輿が青島神社を出発し、青島地区を順遊しながら「暴れ」と言われる海のうねりや大波を模した激しい御輿の動きをして歩きます。人々は御輿をくぐって無病息災などのご利益を願います。御輿は対岸の折生迫の天神社へと向かい、翌日白浜の港から大漁旗をなびかせた漁船団に守護されて海上を帰還します。

お神輿に乗せた御座船を先頭に、満鑑飾の大漁旗などで飾った漁船が列をなして進むようすは壮観で、華やかな祭りです。

青島エリア

青島参道商店街

青島駅から青島の間に続く参道の両脇には土産物屋やおいしい食事処が並んでいます。

各種イベントの際にも利用されており、「YappaあおしまDeナイト！」のキャンドル点灯や「ぐるっと青島フラワーフェスタ」でのパフォーマンス披露などで盛り上がりを見せます。

また、有名な青島神社の「裸まいり」では、和太鼓の演奏をバックに竹竿や幟(のぼり)を持った一行が、青島めがけてこの参道商店街を駆け抜ける場所としても知られています。



参道商店街の入り口に「観光インフォメーション」があり、観光ボランティアの方が待機しています。なお、観光ボランティアをお願いするには事前の予約が必要です。

●詳細は下記まで

宮崎市観光ボランティア協議会事務局

TEL 0985-20-8658

FAX 0985-28-3614



「裸まいり」では参道商店街を駆け抜ける

青島エリア

青島海水浴場

毎年夏になると多くの海水浴客が訪れる青島海水浴場は、青島から宮崎県総合運動公園沖の木崎浜まで弧を描くように延びる砂浜の一角にあります。宮崎を代表する海水浴場の一つで、透明度が高く「日本の快水浴場百選」にも選ばれています。

砂浜に沿って遊歩道も整備され、サイクリングや散策も楽しめます。ワシントンアパームとリゾートホテル、目の前の青島が見事に調和していて、隣接する「こどものくに」とともに観光を兼ねて訪れる観光客で一年中賑わっています。また、絶滅危惧Ⅱ類に指定され、昭和50年に宮崎市の天然記念物に指定されているアカウミガメの産卵地としても貴重な場所となっています。

近年では「マリンリゾート地」としての知名度も上がり、ビーチバレー大会やビーチフラッグ大会なども催され、海水浴だけでなく1年を通してサーフィンなどの海のレジャーを楽しめます。



青島のすぐ隣にひろがる「青島海水浴場」幾何学的に並んだパラソルとフェニックスが美しい



県立青島亜熱帯植物園

広い園内には、ビロウ、県木のフェニックス、女王ヤシ、アコウ、パラボラチョ、ジャカランダなどが植栽され、南国特有のランタナや各種のハイビスカスなどが四季を通じて咲き誇っており、熱帯植物鑑賞大温室では、ヤシ類や果樹類、洋ランなど64科429種約2500本の熱帯性植物を鑑賞することができます。特にブーゲンビリアは80数種類が植栽され、日本一のブーゲンビリアコレクションを目指しています。



青島植物園では、日本一のブーゲンビリアコレクションを目指していて、毎年春と秋にブーゲンマツリが開催されています。

県立青島亜熱帯植物園は昭和40年(1965)に開設されました。向かい側にある青島には、200種あまりの亜熱帯性植物が群生していますが、昭和30年(1955)頃に盗採や火災が頻繁に発生したため、植物保護の対策として島内の自由な採勝が禁止されました。このようにして学術研究や自然教育の場が失われた対策の一つとして設置されたのが、現在青島の西対岸に広がる青島亜熱帯植物園です。

園内では亜熱帯植物の種子や苗木を元に宮崎の気候風土に根付かせる試験、研究が行われています。また、ここは亜熱帯植物のみを集めた珍しい植物園でもあり、世界的に有名なシンガポール植物園と姉妹植物園の提携を結んでいます。

宮崎をアルファベットで表した時の頭文字のMと「鬼の洗濯板」の波状岩を表して建てられた大温室は面積1,322㎡の鉄筋コンクリート造りで、トックリヤシ、グアバ等の国内では珍しい熱帯植物や熱帯果樹が植栽されています。大温室のみ入場が有料(大人200円、高校生以下、障害者(介助要員1名含む)無料)です。

大温室と培養温室を中心にフェニックスやヤシ類の熱帯植物が大きく育っており、宮崎県の南国イメージを作り出しています。

●県立青島亜熱帯植物園ホームページ… <http://www.mppf.or.jp/aoshima/>



植物園のシンボル「大温室」



温室の内部は1年中花が咲き誇っています

四季を通してさまざまな植物が花を開かせ、トロピカルムードを味わう事ができる園内では様々なイベントが開催され、「真冬のフラワーショー」などは見応えがあり太陽の国・宮崎らしい催しとなっています。



真冬の1月～2月に植物園を彩る真冬のフラワーショーでは、市民参加で約15,000球のチューリップの球根を植栽しています



新鮮なジュースやアイスクリームが楽しめる
パラボラチョコカフェ



8,000個のキャンドルでライトアップする
「Yappa' あおしま' De ナイト」

青島エリア

青島と歌碑

古くから景勝地として名高い青島は、古来より多くの人々によって、詩や歌にうたわれています。そして若山牧水をはじめ多くの文人が訪れ、歌碑も残されています。



●若山牧水(わかやま ぼくすい)

歌人。本名繁。

明治18年8月24日、医師若山立蔵(りゅうぞう)の長男として宮崎県東臼杵郡坪谷村(現日向市)に生まれる。延岡中学時代から作歌、牧水と号し、早稲田大学英文科に入るとともに尾上柴舟門下となって雑誌『新声』の歌壇による。1908年(明治41)卒業と同時に歌集『海の声』を出版し、10年出版の第三歌集『別離』によって同門の前田夕暮とともに歌壇に「牧水・夕暮時代」を現出させ、前後2回の短い新聞記者のほかは、もっぱら歌人として生活する。20年(大正9)東京から静岡県沼津に移り、28年(昭和3)9月17日に没した。

また1910年創刊の歌誌『創作』を生涯主宰し、全国多数の新聞雑誌歌壇の選者として広く後進を導き、歌のほか優れた紀行文、随筆が多く、生地に記念館がある。

歌碑の場所…参道筋の松林 「檳榔樹(びろうじゅ)の古樹(ふるき)を想へ その葉陰 海見て石に似る男をも」

●長塚節(ながつか たかし)

明治12年～大正4年 歌人、小説家。

茨城県岡田郡国生村(現 石下町国生)の豪農の長男として生まれる。3歳の頃に小倉百人一首をそらんじ、神童と言われ、早くからその才能を発揮していた。

21才で正岡子規の門をたたき、伊藤左千夫らと「アララギ」を創刊。一方で病氣療養を兼ね、すがさが、わらじという軽装で諸国を旅し、旧所、名跡を訪ねて歌を詠んだ。

結核を発症し、旅をしながら九州大学付属病院で37才の短い生涯を閉じる。

歌碑の場所…青島亜熱帯植物園内

「とこしへに慰もる人もあらなくに枕に潮のをらぶ夜は憂し」(大正3年9月13日 36歳)



●金子兜太(かねこ とうた)

大正8年、埼玉県に生まれる。秩父郡皆野町に育つ。

茨城県旧制水戸高校在学中に俳句を始め、復員後日銀に勤めていた昭和37年に俳句「海程」を創刊。現代俳句協会名誉会長。

句碑は金子さんと親交のあった故山下淳さんの夫人の呼びかけで、宮崎俳句研究会、海程宮崎支部などが賛同して建立。宮崎市芸術文化連盟などが協賛した。

句碑の場所…青島亜熱帯植物園内

「ここ青島鯨吹く潮われに及ぶ」(平成17年7月10日 85歳)



歌碑は残されていませんが、放浪の俳人として有名な種田山頭火も青島を訪れ、よんだ俳句が残っています。

●種田山頭火(たねだ さんとうか)

明治15年に山口県で生まれる。明治・大正・昭和にかけての俳人で、自由律俳句のもっとも著名な一人。大正14年に寺男となり、翌年から雲水姿で西日本を中心に回りながら句作を行い、旅先から俳句雑誌「層雲」に投稿を続けた。青島にある「角屋」に宿泊したことがあり、俳句を詠んだ事がある。「波の音たえずして郷(ふるさと)遠し」

古に残る青島を詠んだ歌

桜川瀬々の白波しけければ ほのかに見ゆるしだの浮島

赤玉は 緒さへ光れど白玉の 君がよそひし尊とかりけり

沖津島 鴨つく島に我が寝ねし 妹は忘れず 世のことごとに

歌碑はありませんが、古くから詠まれていた歌

おきつ島 鴨つく島による波の よるともみえぬ 秋の夜の月 （黒木光蔵）

鯛とると船が帆かけて 乱るれば 沖は にわかひ ひろくなりけり （長塚節）

から国の草木しげれる青島の 木の下暗に 神あそぶらん （鈴清子）

南より流れたる種子ひとつ わが遠き代のこと しぬばしむ （斉藤茂吉）

みなぎれる朝開の海に橋ありて 青島に渡る人 多く見ゆ （土屋文明）

磯の千鳥は なきなき渡る むこう青島 月あかり （野口雨情）

浮ぶ青島 びろう樹のかげで とろり見ましょうか異国の夢を （西条八十）

〈方言狂句〉 ビロン葉に冬んねえ国ん風が吹く （詠み人知らず）

〈尖りの浜にある石碑〉 異国めく日向青島青嵐 （大野晩睦）

青島エリア

コンシェルジェあおしま

●サイクリングはコンシェルジェ青島へ

JR青島駅に、青島地域の魅力を再発見し情報発信するための拠点として「コンシェルジェあおしま」が平成21年11月10日にオープンしました。主に青島・日南観光の情報発信や青島地域を周遊するためのレンタサイクル、アウトドアスポーツのプログラム提供などが主な業務で、当面は土日だけの営業です。

●コンシェルジェ青島… TEL 0985-65-1120



●青島観光はコンシェルジェ青島から。

「青島周辺のサイクリングマップ」やいろいろな観光パンフレットが用意されています。青島に訪れたら、まず「コンシェルジェ青島」へ。



サイクリングマップ





折生迫エリア

折生迫エリア全体地図



折生迫エリア

● 城山公園（じょうやまこうえん）

城山公園は標高約67mの高台にあり、頂上は仏舍利塔を中心とした広場になっていて、太平洋と青島、白浜海水浴場が一望できる眺望の地です。この地は戦国時代の柴波洲城（しわすざきじょう）の跡で、仏舍利塔の建っているあたりに本丸がありました。突浪川と太平洋に急斜面で接している天然の要害の地で、伊東48城の一つでした。伊東氏と島津氏が争奪をくり返しましたが、元和元年（1615）、徳川幕府の一国一城令で廃城となりました。

天正8年（1580）に島津家家老・上井寛兼（うわいかくけん）が宮崎城主になり、柴波洲城主に寛兼の父・薫兼（くんけん）がなつたと記録にあります。また、庭で蹴鞠（けまり）をしたとの記録もあり、中世の山城は武骨なイメージがありますが、風雅な一面もあったものと思われます。

なお、高さ21m、直径15mの仏舍利塔は昭和47年（1972）8月にインドのネール首相から真身舍利（釈迦如来分骨の意）を受けて、創建されたそうです。

● 城山公園には入り口が2ヶ所あります。

突浪川沿いの山の入り口からは階段が続いていて、うっそうとした杉や山桜の樹林に包まれながら急な階段を上ります。途中には、石垣跡と思える野面積みや野仏などもあり、いかにも中世の山城の雰囲気を楽しめますが健脚向きです。白浜オートキャンプ場からは途中まで車で上れますので、足に自信のない方はこちらがおすすめです。



駐車場からの入口



城山公園には展望台が2ヶ所あり、青島側からは青島全体が見渡せる



仏舍利塔



展望台からの眺め：青島漁港と町並み

折生迫エリア

青島漁港

県道377号沿いのコンビニ横を海側に入ると、磯の香りとともに左手に青島全体が見渡せる絶景ポイントが広がります。青島を横に見て防波堤で区切られた一角が、青島漁港です。

青島の漁は近場の沿岸を漁場とする小型船が多いため、四季を通じて様々な魚が水揚げされます。



宮崎市漁協直営レストラン「港あおしま」

2005年、青島漁港内にある漁業研修センターの2階にオープンした宮崎市漁協直営レストラン「港あおしま」では青島で採れたての厳選された天然魚介類を使ったメニューが並び、家族連れのお客や遠方からのお客などでにぎわいを見せ、評判となっています。看板メニューは伊勢えびの味噌汁が付く港あおしま定食と刺身定食とのことです。

所在/ 宮崎市青島3丁目5番1号

営業時間/ 11:00～14:30(月曜定休)

URL/ <http://www.jf-miyazakishi.jp/restaurant/index.html>

「港あおしま」の建物の隣には魚介の直売センターがあります。その日に採れたばかりの魚介類が手頃な価格で提供されているのでお勧めです。

●青島漁港の移り変わり



青島漁港は、昔は折生迫港といい突浪川の河口港でした。折生迫港の歴史は古く、天正時代(1573～1593年・安土桃山時代ともいう)に宮崎城主・上井寛兼日記に琉球船が出入りしていたと書かれています。

『日向地誌』によると、伊東氏の時代には関船が係留してあったそうです。関船とは海賊を退治するための早船で、船足を早くするために42挺から80挺櫓まであったそうで、河口にこれら軍船が並んだ様は壮観だったと思われますし、繁盛ぶりがうかがえます。江戸時代末期までは6～700石の巨船が出入りしていたようですが、その後川底が土砂で埋まり、明治時代には4～500石の船でもつなぐことができない状態だったと書かれています。

その後、防波堤など港を修築する案が度々出されましたが、予算の都合などで大正14年(1925)までに防波堤と護岸ができた程度でした。昭和27年(1952)に県の第一種漁港築設計画に採り上げられ、数回の整備計画ののち、今のような近代的な漁港に生まれ変わりました。



宮崎県の伊勢えびは産卵期である4～8月まで禁漁。9月から漁が解禁となります。

● まちなみ散策 - 鵜戸街道を中心としたエリア “小さな石像たちと出会う道”



落ち着いた雰囲気包まれた町



シャンシャン馬（宮崎神宮大祭）

● 鵜戸神宮往還（うどじんぐうおうかん）

道の歴史って魅力的ですね。特にその道が、昔から人々に利用され続けている道だとなおさらです。

青島駅東口から右に折れ、県道377号と日南線に挟まれた道が鵜戸（うど）街道で江戸時代は「鵜戸神宮往還」といい、宮崎市中村から城ヶ崎、赤江、南方、郡司分、熊野、折生迫と海岸づたいを南下し、七浦七峠を越えて鵜戸に続いていました。

道幅は車2台がすり違える程度ですが、明治の中頃までは主要な道路でした。

宮崎地方には昔から、結婚した男女が夫婦そろって鵜戸神宮に参詣する慣習がありました。帰り道に鈴のついた馬を夫が引いて帰る様子が「シャンシャン馬」道中として、広く知られています。昔は交通機関がまったくなかったので、徒歩で1日目に折生迫か内海で一泊し、翌日陸路で七浦七峠を越えて鵜戸神宮に参拝して一泊し、3日目にまた折生迫か内海で一泊する3泊4日の旅だったということです。

この道は相当古くから利用されていたようで、内海峠は要衝として近くに峠城が築かれていました。応永30年（1423）島津久豊が内海に上陸し、峠城をとり、木花の車坂城を攻略した時の道といわれています。

● 歴史のロマンを感じながら歩く

車の往来の激しいバイパスから一步入っただけで、まるで別世界。ほどほどの広さの道の両側には適度に樹木が残り、緑の生け垣とマッチしていて落ち着いた雰囲気を醸し出しています。手入れされた庭を眺めながら歩くだけでも楽しいのに、道の両側に様々な表情の石仏が点々と配されていて、その分得した気分になります。木陰に隠れるように鎮座している石仏も綺麗に管理されていて、必ず花が供されているのもすがすがしく、おもわず小さな顔をのぞき込んでしまいます。

● 種田山頭火も宿泊しました



青島駅東口から旧鵜戸神宮往還を進み、10分ほど歩くと右手に龍福寺、その奥に厳泉寺が見えてきます。明治はじめにおこった廃仏毀釈の思想で全国の寺が壊されるなどの騒動がおこり、ここ折生迫でも厳泉寺以外の寺は全敗となりました。龍福寺と青島地域センターの間を抜け、急な坂道を下りしばらく歩くと三叉路になり正面にお稲荷さん、右手に戸高商店があります。この戸高商店は現在は自販機だけの営業になっていますが、旧「角屋」で「種田山頭火」の泊まった宿として知られています。

「種田山頭火」は旅と酒と句作に生きた漂泊の俳人で、その漂泊の人生と型にとられない自由律の俳句は、没後60年たつ現在も多くの人々の心をひきつけています。「種田山頭火」は、宮崎神宮や生目神社を巡り青島にやってきました。以下に山頭火の『行乞記』で、角屋に泊まった部分を抜粋します。（青空文庫より）

山頭火の『行乞記』より

九月三十日 秋晴申分なし、折生迫、角屋（旅館・中）

いよ／＼出立した、市街を後にして田園に踏み入って、何となくホツとした気持になる、山が水が、そして友が私を慰めいたはり救ひ助けてくれる。

こゝまで四里の道すがら行乞したが、すっかり労れてしまった、おまけにボクチンに泊りそこなつて（あのボクチンのマダムは何といふ無智無愛嬌だったろう）旅館に泊つた、一室一燈を占有して、のんびりと読んだり書いたりする、この安らかさは、二十銭三十銭には代へられない、此宿はかなり広い家だが、お客さんとしては私一人だ、主人公も家内もみな好人物だけれど、不景気風に吹きまわられてゐるらしい。

青島を見物した、檳榔樹が何となく弱々しく、そして浜万年青がいかにも生々してゐたのが印象として残つてゐる、島の井戸——青島神社境内——の水を飲んだが、塩気らしいものが感じられなかつた——その水の味もまた忘れぬものである。久しぶりに海を見た、果もない大洋のかなたから押し寄せて砕けて、白い波を眺めるのも悪くなかつた（宮崎の宿では毎夜波音が枕にまで響いた、私は海の動揺よりも山の閑寂を愛するやうになつてゐる）。今日、途上で見たり聞いたり思ひついたりしたことを書きつけておかう、昔の客馬車をそのまゝ荷馬車にして老人が町から村へといろ／＼の雑貨を運んでゐた、また草原で休んでゐると、年とつたおかみさんがやつてきて、占い（ウラカタ）はしないかといふ、また、或る家で、うつくしいキジ猫二匹を見た、撫でゝやりたいやうな衝動を感じた。今日、求めた草鞋は（此辺にはあまり草鞋を売つてゐない）よかつた、草鞋がしつくりと足についた気分は、私のやうな旅人のみが知る嬉しさである、芭蕉は旅の願ひとしてよい宿とよい草鞋とをあげた、それは今も昔も変わらない、心も軽く身も軽く歩いて、心おきのない、情のあたゝかい宿におちついた旅人はほんとうに幸福である。いはゞ草鞋は時代錯誤的な履物である、そこに時代錯誤的な実益と趣味とが隠されてゐる。このあたりの山も海もうつくしい、水も悪くない、ほんの少しの塩分を含んでゐるらしい、私のやうな他郷のものにはそれが解るけれど、地の人々には解らないさうだ、生れてから飲みなれた水の味はあまり飲みなれて解らないものらしい、これも興味のある事実である。夜おそくなつて、国勢調査員がやつてきて、いろ／＼訊ねた、先回の国勢調査は味取でうけた、次回の時には何処で受けるか、或は墓の下か、いや、墓などは建てゝくれる人もあるまいし、建てゝ貰ひたい望みもないから、野末の土くれの一片となつてしまつてゐるだらうか、いや／＼まだ／＼業が尽きないらしいから、どこかでやつぱり思ひ悩んでゐるだらう。元坊にあげたハガキに、——とにかく俳句（それが古くても新しくても）といふものはやつぱり夏爐冬扇ですね、またそれで十分ぢやありませんか、直接其場の仕事に役立たないところに俳句のよさがあるのではないでせうか、私共はあまり考へないでその時その時の感動を句として表現したいと思ひます。

夕日まぶしい銅像を仰ぐ
涸れはてゝ沼底の藻草となつてしまつて
波の音たえずしてふる郷遠し
波音遠くなり近くなり余命いくばくぞ
お茶を下さる真黒な手で
青島即事
・白浪おしよせてくる虫の声

●青島村

「旧角屋（戸高商店）」の前にお稲荷さんがあり、その反対の道路側に「青島村道路元標」が立っています。青島地域は、鎌倉時代初期（1197）から明治9年（1876）まで、679年間は加江田村の一部でした。明治22年に折生迫村と内海村が合併し青島村が誕生しました。さらに昭和26年に宮崎市と合併した歴史があります。

●軽便鉄道（けいべんてつどう）



青島駅東口から旧鵜戸神宮往還を進み、青島小学校の手前に青島軽便鉄道橋跡が残っています。

青島軽便鉄道は、大正2年（1913）から昭和37年（1962）まで約50年間南宮崎駅～内海港の約20kmを海沿いに結び、地域の足として重要な役割を果たしました。この鉄道のマッチ箱みたいな蒸気機関車は、日本で初めて走った蒸気機関車「弁慶号」によく似ているということで、県外からの観光客に大変珍しがれたということです。

●角屋から旧鵜戸神宮往還に分かれ、突浪橋へ

50～60mほど歩いて左折し急な坂道を下り突浪橋に向かいます。坂道を下ったあたりは昔は船荷の集荷所があったとのことで、確かに突浪川の景観は昔なつかしい雰囲気包まれていて、思わずホッとします。狭い空間を出たとたん、突浪橋から河口までの青く広々とした風景が目飛び込んできて、新鮮な驚きに出会うことでしょう。



●サクラの名所づくり

ルートからはずれませんが、JR日南線を渡り青島公園墓地の山裾を回り込むようにして青島バイパス高架下を通り、しばらく細い道を歩くと「祇園桜森」が現れます。現在は幼木ですが約100本の桜の木が植栽されていて、将来は桜の名所として市民の憩いの場となることを目指しています。



折生迫エリア

● まちなみ散策 - 港町の雰囲気味わう折生迫エリア

● ゆっくりと町を歩いて「小旅行」を楽しみましょう。

どこの町に行っても、それぞれちよつと気になる場所ってありますよね。自然であつたり建物であつたり。特に古い町並みには独特の生活感が漂っていて楽しいものです。おしゃれで賑やかな観光名所も楽しいけれど、静かに時を刻んできた佇まいも魅力的です。

カメラ片手に気ままに町を歩いてみましょう。新しい発見があなたを待っています。

県道377号から海側、青島漁港と突浪川にはさまれた地域には民家が密集し、昔ながらの港町のたたずまいが残っていて、人の温もりが感じられるところです。

青島漁港がうまれる前は、折生迫港という突浪川の河口港にあたり、川岸には今でも多くの漁船が繋がれ、対岸にはサーフショップや釣り具屋さんなどが並んでいます。昔は川沿いに商店なども多かったようですが、今は釣り人の姿が見える程度です。ゆったりとした時が流れる様は魅力的です。

● 突浪橋から城山公園沿いに歩く



突浪川は、昔は筑波川といわれていました。突浪橋から河口付近は折生迫港として栄えていて、今は折生迫漁港となっています。江戸時代には薩摩藩の回船なども立ち寄るなどとても繁盛していて、酒屋や遊女のいる店などもあり昼夜を問わず賑やかだったようで、明治初めの戸数は435戸とあります。

突浪橋からの景観は、川面のキラキラした輝きと漁船、城山公園(じょうやまこうえん)の濃い緑に純白の仏舎利塔(ぶつしゃりとう)が映え、青・濃緑・白の見事なコントラストで眺めていると時のたつのも忘れそうです。

突浪橋を渡ると左側に川沿いの細い道と斜めに入る車道に分かれます。川沿いの道にはサーフショップや釣り具店が並んでいて、いかにも海沿いの漁港の雰囲気が漂っています。斜めに入る車道をすすむと民家が建ち並び、その一角にバナナの葉に覆われた古民家が見えてきます。ドイツ人の陶芸家『ビョーン・クーン』さんの工房で、バナナの木の間から「ビョーン窯」の看板が見えます。

玄関を入ると土間がお店になっていて、ビョーンさんの作品が並んでいます。1988年に来日したというビョーンさんは、陽気な笑顔で迎えてくれるでしょう。ひとときを楽しくおしゃべり過ごすのも「小旅行」の思い出になるでしょう。

サーファーでもあるビョーンさんの作品は、青島への思いに溢れています。「鬼の洗濯板や青い海」をイメージしたという「グイ飲み・壺や茶碗」、実用的な焼き物も多く、おもわず手にとって見とれてしまいます。



ビョーン窯を出て、そのまま川沿いに歩いていくと城山公園をぐるりと巡るルートになります。ここらあたりから眺める青島も美しく、干潮時には「鬼の洗濯板」に囲まれた青島が見え、遊歩道から海岸に降りて磯遊びを楽しむこともできます。

県道377号「白浜入口」の信号から入ると、城山の裏側入り口にあたります。ちよつと看板が分見えにくいですが、ここからも城山公園に登ることができます。階段がキツイので健脚の人におすすめですが、野生の猿も出没する深い森におおわれていて、市街地の近くに豊かな自然が残されていることに驚かされます。

●突浪橋から突浪川沿いに歩き青島漁港へ

突浪川と青島漁港に囲まれた地域には民家が密集し、昔ながらの港町のたたずまいが残っています。渥美清さんの映画「フーテンの寅さん」がひょっこり顔を出しそうな雰囲気は、なんとも魅力的です。



突浪川に面した護岸は広く、古くからまつられていた「天神社」や「浜町観音」などが並び、港町ならではの景観はいつまでも大切にしたいものです。



天神社：「海を渡る祭礼」では浜下りの夜、御神体が一泊する。古くから大切にされていた海の守り神。



浜町観音：安産祈願にご利益があるということで、昔から参拝者が絶えない。

●折生迫漁港の町並み

狭い路地の突き当たりに川面がちらっと見え、目の前にカモメが羽を休めている。川と海と生活が密着している空間に、なんとも郷愁をおぼえます。狭い路地を散策するのはとても楽しいのですが、そこでは地元の人たちが生活している場でもあります。散策する際には他人のプライバシーを尊重することを忘れないでください。



折生迫エリア

● 白浜オートキャンプ場・海水浴場

宮崎の観光名所、青島、こどものくに、堀切峠から車で約10分の白浜海岸に隣接した開放感あふれるキャンプ場です。場内にはヤシの木が並び、目の前に広がる日向灘の風景が南国情緒を醸し出しています。



白浜オートキャンプ場

30区画あるテントサイトは全区画とも芝生が敷かれており、8棟あるケビンには車いす用のスロープも設置されております。テントやタープ、ランタン、BBQセット、調理セットなどのレンタルが可能です。

磯遊びや釣りはもちろん、夏になれば近くにある白浜海水浴場で海水浴を楽しむこともできます。

● 白浜オートキャンプ場

問合せ先 / 0985-65-2020

青島と堀切峠に囲まれた大きな入り江にある白浜海水浴場は昭和22年の夏に開設されました。青島をはさんで青島海水浴場と対峙する位置にあります。波状岩が続く岩場では釣りや磯遊びも楽しむことができ、また、オートキャンプ場も併設されているので家族連れに人気があります。



白浜海水浴場

折生迫エリア

日之御崎観音寺

青島の南の対岸、白浜海水浴場から南東約200mのところに、日向七堂伽藍の一つに数えられる日之御崎観音寺（ひのみさかんのんじ）があります。

寺の由来によると、旧飢肥藩の真言宗成就寺（じょうじゅじ）の末流とあり、飢肥藩主伊東氏より禄高22石6斗を給されたとあります。『日向地誌』によると、永禄10年（1567）の春、島津氏から伊東氏に対して和議の使者として、坊の津一乗院の僧をこの寺に遣わしたとの記録があり、伊東氏とのかかわりの深い寺であることが分かります。

御本尊は一寸八分（5.5cm）の閼浮壇金（えんぶだごん）の正観世音像で、「閼浮」は仏に会い仏法を聞く聖地の洲を意味し、「壇金」は閼浮の大森林を流れている川の中で採取された砂金の事を指しています。この寺は昔から子授け安産、航海交通安全、一家安泰（いっかあんたい）の祈願時として有名です。一説によればこの寺は1,000年前日羅上人の開山であるとも伝えられています。

うっそうとした樹林に包まれた境内。





こどものくにエリア

こどものくにエリア全体地図



こどものくにエリア

こどものくに

昭和14年(1939)に開園した総面積約17万㎡の広大な遊園地で、JR日南線「こどものくに」駅の目の前に広がっています。丘や川の自然条件を巧みに生かした園内には南国特有のソテツやハマユウなど750種13万5千本の亜熱帯植物が群生し、椿やバラなど四季折々花に包まれた楽園です。昭和24年には昭和天皇がお立ち寄りになり、それを機に園内の整備がますます進められるようになりました。

毎年、園内を色とりどりの花々で埋め尽くす花の祭典「フラワーフェスタ」のメイン会場として多くの観光客が訪れます。

●「こどものくに」 ホームページ… <http://www.miyakoh.co.jp/kodomo/>



花の祭典「フラワーフェスタ」

●「こどものくに」 誕生物語

昭和14年3月21日。日中戦争の最中に「こどものくに」は開園しました。手がけたのは「宮崎観光の父」と呼ばれる岩切章太郎でした。岩切は『日向の大地をキャンバスにして、理想の絵を描きたい』という理想のもと、松林と原野と桑畑だった約6万6,000㎡の広大な大地を遊園地につくり変えました。

開園に先立ち一般から公園名を公募した結果、2,454通の応募があり、「こどものくに」に決まりました。……当時の新聞は次のように伝えています。「太平洋に浮かぶ青島を背景に、悠久自然の織りなす風光、人知と科学の妙味を盛った遊園施設はまさしく楽園。宮崎鉄道も、来る列車来る列車が満員で、入場者は無慮数千人を数えた」(原文のまま)。岩切章太郎はその後、「こどものくに」から青島、堀切峠、サボテン園と次々と日南海岸に『理想の絵』を描いていきました。

青島歴史文化の広場

青島駅西口から線路沿いに宮崎方面200mほど歩くと「青島歴史文化の広場」があります。

悠久の歴史を体感できるこの公園には、縄文時代の後期（紀元前150年頃）と推定される貝塚や古墳があり、それぞれ松添貝塚、松添古墳と呼ばれています。松添貝塚は昔から「みなばたけ」と呼ばれていました。「みな」とは貝の方言で、貝殻がたくさん出るところとして知られていました。

貝塚は、大昔の人が食べていた魚介や鳥、獣の骨などを捨てたゴミ捨て場です。そこを調査することで土器や石器など当時の人々が使っていたものをはじめ、サザエ・ハマグリなどの貝類や獣・鳥・クジラの骨・人骨などが発見されており、貴重な研究材料となりました。松添貝塚での調査により、昔は松添の地域まで海岸線が広がっており、大昔の人々が裏山の林で狩猟していただけでなく、漁業も行っていたというその生活の様子がうかがえます。

発掘調査をもって出土された資料の一部は現在宮崎県立博物館に陳列されています。また、この松添貝塚から出土した土器のうち、南九州に特徴的な土器はこの遺跡の名前をとって「松添式土器」と呼ばれています。

●昭和28年に、宮崎大学の田中教授らと研究生が調査をし、いろいろな出土物がありました。

- ・サザエやハマグリ ・ウニや魚の骨 ・イノシシや鹿の骨 ・石器（小型の石包丁）
- ・石斧（せきふ）ー石の斧 ・石錘（せきすい）ー石の重り。魚を採るときの網などに使用する。
- ・土器（薄く上質のもの）

●その後、南九州大学の調査で

- ・クジラや海獣（かいじゅう）の骨 ・タヌキや山鳥の骨 ・骨の釣り針



復元された住居



貝塚を見ることができる。

トロピカルロード

●爽やかな潮風を受けながら、サイクリングにウォーキングに最適です。

青島から宮崎県総合運動公園の間に続く遊歩道をトロピカルロードと呼びます。青島地域～宮崎県総合運動公園間を結ぶトロピカルブリッジが平成16年に完成したことで完全開通しました。

トロピカルブリッジは延長300m、風景にマッチした茶色と黄色の2色カラー舗装が使われており、途中で休憩スペースとしてバルコニー3箇所が設けられています。トロピカルロードは片道約3kmの長さで、太平洋海原と共に青島や木の花ドームなどを眺めながらのウォーキングは最高です。

海沿いを快適に走る事ができるので、ジョギングやサイクリングなどにも利用されています。また、県内で合宿を行う陸上競技チームがロードトレーニングにも利用しているほど整備された遊歩道です。

青島参道商店街をはさんで海岸遊歩道が続き、一部折生迫地区は一般道になりますが海沿いに内海までサイクリングコースとなっています。どこまでも平坦で走りやすく、太平洋の荒波と鬼の洗濯板など、青島の魅力を堪能できます。体力に自信のある方はチャレンジしてみませんか。

●レンタサイクルも充実しています。

サイクリングを楽しみたいが、自転車はどうするの？ 途中で疲れたらどうするの？

そんな利用者の不便を解消するために「9ヶ所のレンタルステーション」が整備されました。自由に乗り降りでき、疲れたら近くの「レンタルステーション」で返却できます。場所によって温泉入浴半額券など特典もいろいろあるのでお得です。

パンフレットやサイクリングマップは下記のレンタルステーションに用意されています。



レンタルステーションの連絡先（貸出・返却場所）

① コンシェルジェあおしま（JR青島駅）	0985-65-1120
② 県立青島亜熱帯植物園 大温室前 パラボラチョコカフェ	0985-65-1042
③ 青島観光ホテル 1Fフロント	0985-65-1211
④ 青島神社 社務所前広場（返却のみ）	0985-65-1262
⑤ 青島グランドホテル 1Fフロント	0985-65-0111
⑥ 青島パームビーチホテル 2Fフロント（返却のみ）	0985-65-2929
⑦ こどものくに こどものくに駅前中央ゲート	0985-65-1111
⑧ 宮崎市自然休養村センター（返却のみ）	0985-65-1921
⑨ 宮崎県総合運動公園 （財）宮崎県公園協会 管理事務所内	0985-58-6543
○ レンタサイクル……貸し出し・返却	○ レンタサイクル……返却のみ



レンタサイクルを利用するとこんなに特典があります！

自転車のキーを見せてください！

温泉入浴半額 青島観光ホテル・青島グランドホテル・青島パームビーチ
ホテル・青島サンクマール、宮崎市自然休養村センター
県立青島亜熱帯植物園 パラボラチョコカフェ フレッシュジュース10%割引
青島神社 日向神話館 拝観料100円割引



トロピカルブリッジ

青島いろいろ物語

「こどものくに」前から県道沿いにズラリと並ぶ青島名物「いろいろ」のお店。

青島名物として名高い「いろいろ」は、独特の風味をもった米の粉を主原料にした練り菓子です。この名菓は当時青島神社参道のかたわらで旅館業を営んでいた鈴木サトさんが創案したもので、明治10年頃から一般に売り出されるようになったと言われています。

サトは「餅菓子」の改良を思い立ち、失敗をくり返しながらかち前の粘りでようやく新しい「もち菓子」を作りました。その菓子は「おサト羊羹」と呼ばれ、「いりこ餅」と並ぶほどの人気となり、青島の名物となりました。「おサト羊羹」の味を気に入った旅の薬屋が、菓の外郎飴（いろいろあめ）に似ているということで、サトが「いろいろ」と名付けたといいます。



昔ながらの製法にこだわったいろいろ作りは本格的